

講義名	統計的方法論研究			授業形態	
担当教員	後藤 こそ恵	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

修士課程における研究において統計的方法は必要な情報を収集する非常に重要な活動である。しかしながら、様々な情報があふれる今日では、情報を正しく収集・活用するための方法についての正しい知識が求められる。そこで、この講義では論文執筆に役立つ統計的分析の内容について学んでいく。

到達目標

以下の2点を到達目標とする。
 (1) 論文作成における、統計的分析の重要性を理解できる
 (2) 統計的分析をデザインし、データを取得し、使いこなせることができるようになる。

提出課題

受講者数によって変更する場合もあり得るが、基本的には教科書の内容に関する提出物および実際の統計分析結果のまとめを提出してもらいます。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出内容についてのコメントを適宜フィードバックする。

評価の基準

課題提出 100%

履修にあたっての注意・助言他

普段から経済ニュースに触れておくことが望ましい。日経テレコン（学内PCよりアクセス可）において日経流通新聞などを読む習慣をつけると授業で学んだ理論を具体的な事象に落とし込んで理解できるようになるだろう。また、同様の現象を異なる場面で観察したときにその背景について考察することも可能である。その他、テレビ東京の経済番組（ニュース、ドキュメンタリー）についても学ぶところが多いので視聴をお勧めする。

教科書

.1からのマーケティング分析（第2版）.	恩蔵直人・富田健司	碩学舎	2640	978-4-502-421
----------------------	-----------	-----	------	---------------

参考図書

.なし.				
------	--	--	--	--

その他

授業計画

内容は受講者数や読書によって変更する場合がありますが、以下の内容に加えて実際にアンケート調査を行い、分析方法の習得を目指します。

- 第1章 マーケティング分析の楽しさ
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第2章 マーケティング分析の手順
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第3章 仮説検証
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第4章 サンプリング
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第5章 グラフ
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第6章 平均と標準偏差
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第7章 相関分析
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第8章 2 検定
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第9章 t 検定
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第10章 分散分析
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第11章 回帰分析
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第12章 因子分析
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第13章 コンジョイント分析
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第14章 共分散構造分析
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間
- 第15章 質問票の作成
 テーマに関する基本的な用語の予習 2時間
 授業内容に関連するニュースやHPの閲覧 2時間

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

統計的分析に関する理解を深め、問題探索、課題提案の妥当性を客観的に検証することができる。そのことにより、「理論的・実証的な課題を研究するために必要な科学的方法論を身につけていること」というディプロマポリシーの実現に貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

進捗状況について常に確認し、適宜アドバイスをしていくこととする。

実務経験の有無及び活用

備考